

携帯電話によるインターネット利用状況等調査について

平成21年2月

山口県では、中学生、高校生とその保護者を対象に、携帯電話によるインターネットの利用状況や有害情報対策に関する認識などについて、アンケート調査を行いました。

【調査の概要】

1 調査の目的

携帯電話によるインターネットの利用状況並びに有害情報及び有害情報対策に関する青少年及びその保護者の認識等を把握し、青少年が携帯電話を安全に安心して利用できる環境の整備等の有害環境対策の推進に資する

2 調査対象者

県内の中学校2年生及び高等学校2年生並びにその保護者

- ・中学校20校（各市町から1校を抽出）
- ・高等学校12校（市町を規模別に3区分し、各区分から4校を抽出）

区 分	調査対象数	有効回答数
生徒合計	3,991	3,485
中学生	2,360	2,180
高校生	1,631	1,305
保護者合計	3,991	3,438
中学生保護者	2,360	2,153
高校生保護者	1,631	1,285
合 計	7,982	6,923

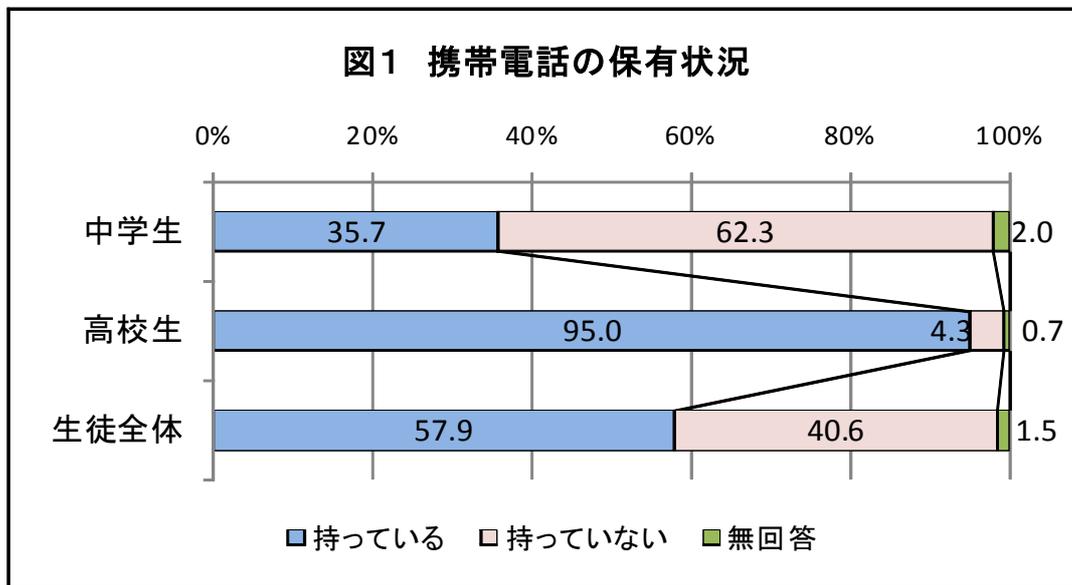
3 調査期間

平成20年5月～6月

1 アンケート調査の結果

(1) 携帯電話の保有状況

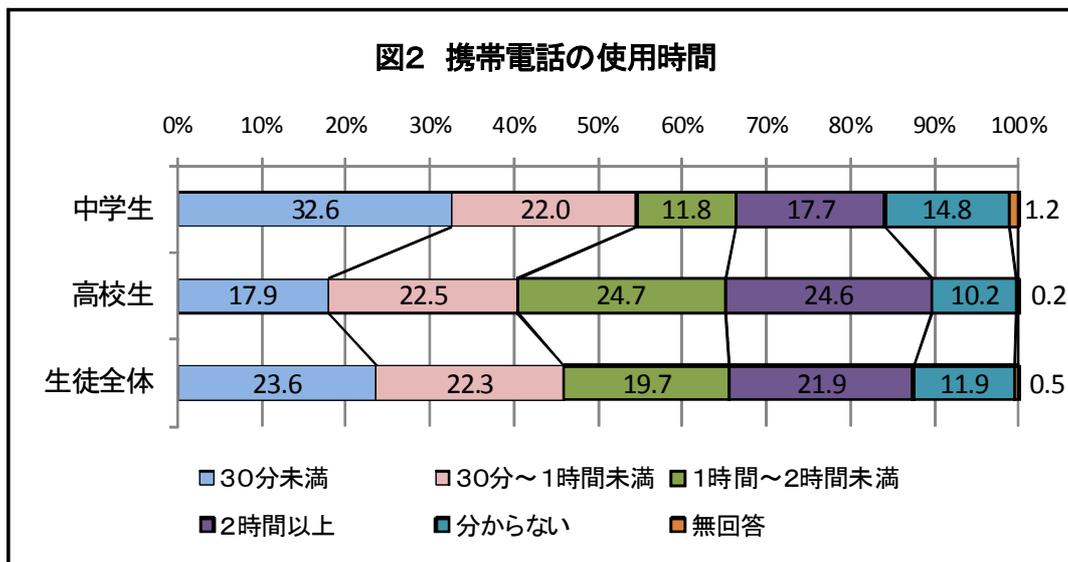
生徒の6割近くが、携帯電話を保有（高校生では95%）



◎ 携帯電話を保有している 生徒全体57.9% (2,019人)

(2) 携帯電話の使用時間

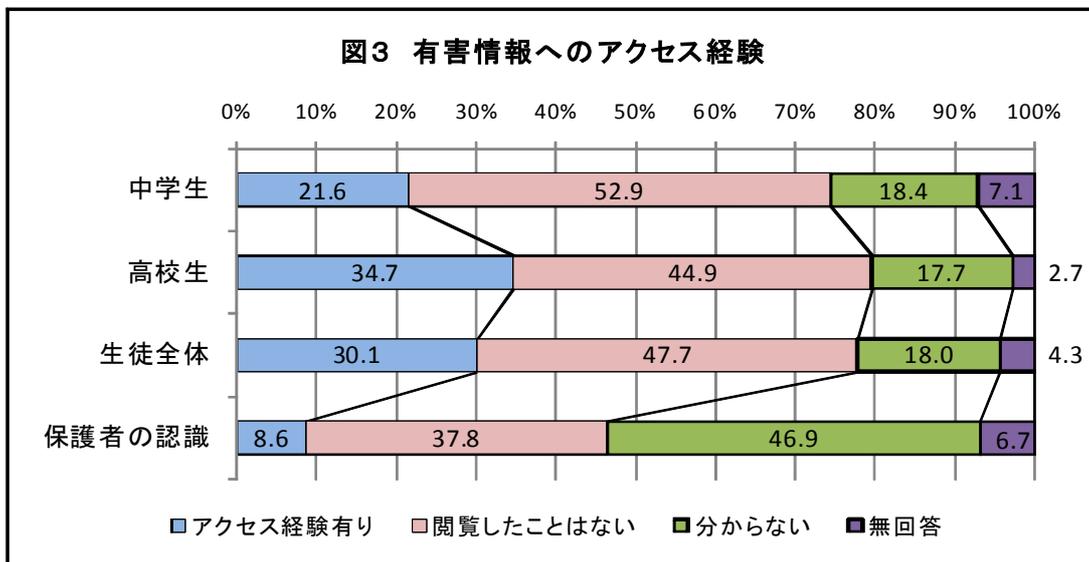
生徒の約4割が携帯電話を1日あたり1時間以上使用



◎ 1日あたり1時間以上使用している 生徒全体41.7% (841人)

(3) 携帯電話による有害情報へのアクセス経験

生徒の3割以上が有害情報にアクセスした経験がある
(保護者の約半数が子どもの利用実態を知らない)

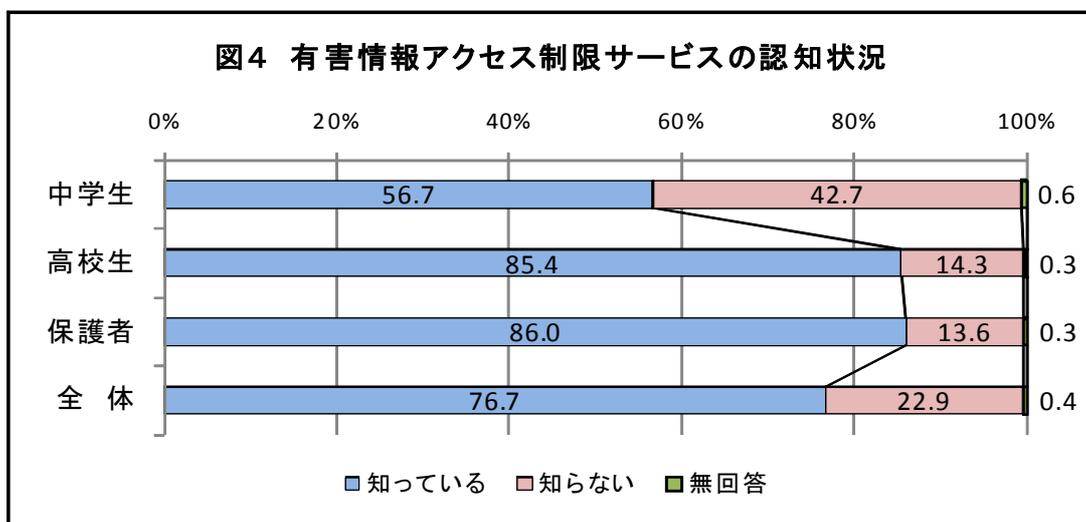


◎ 有害情報にアクセスした経験がある 生徒全体30.1% (545人)

※ 有害情報とは、「アダルト画像や動画サイト」、「出会い系サイト」、「学校裏サイト」、「他人の悪口（掲示板）」、「自殺に関するサイト」、「犯罪をそそのかすサイト」、「爆発物・毒物・麻薬等に関するサイト」をいう。

(4) 有害情報アクセス制限（フィルタリング）サービスの認知状況

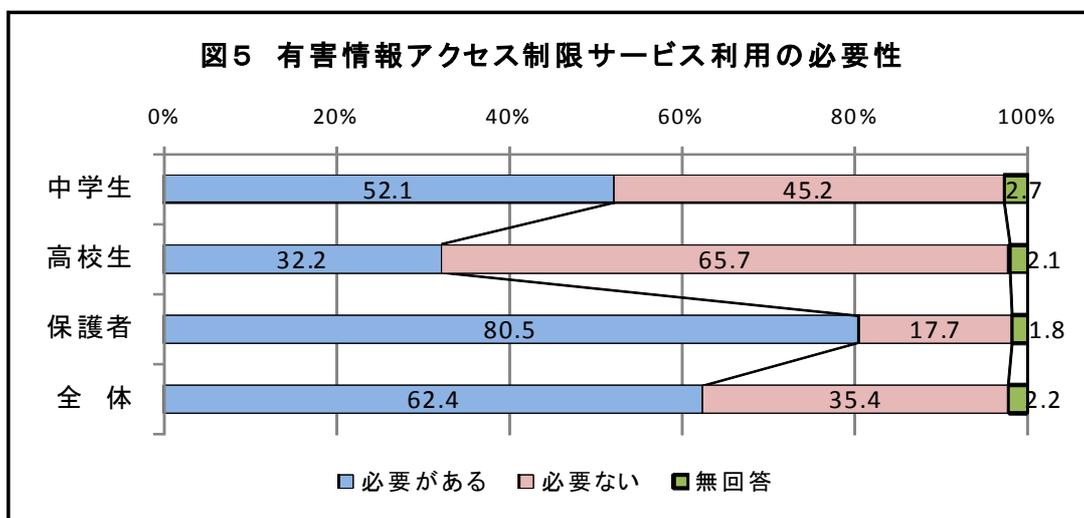
有害情報アクセス制限サービスの認知率は全体で7割以上



◎ サービスを知っている 全体76.7% (5,308人)

(5) 有害情報アクセス制限サービス利用の必要性

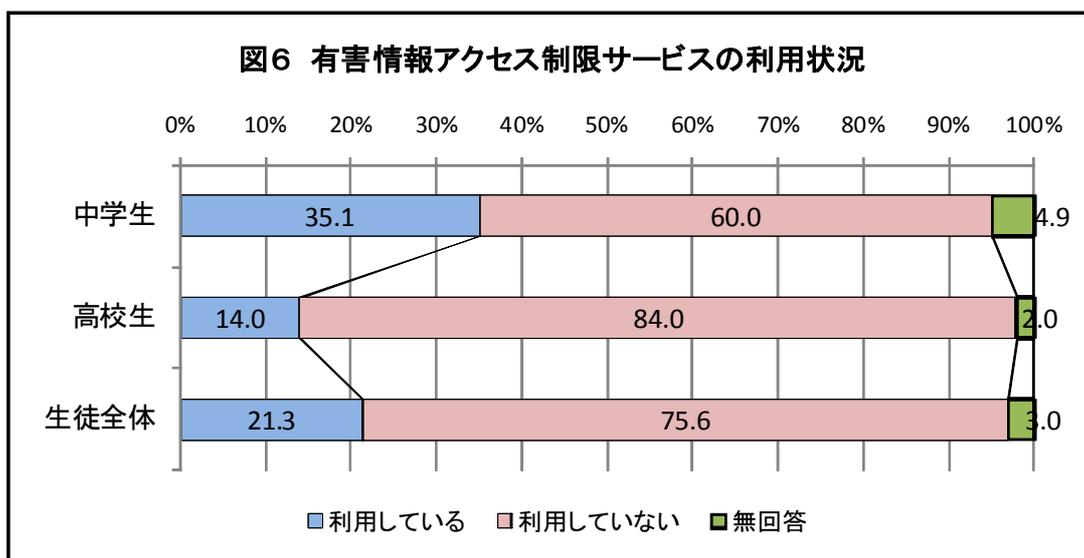
全体の6割以上が、有害情報アクセス制限サービスを必要と回答



◎ サービスは必要と考えている 全体62.4% (4,323人)

(6) 有害情報アクセス制限サービスの利用状況

利用率は2割程度で、認知率・必要性の認識に比べ、低い

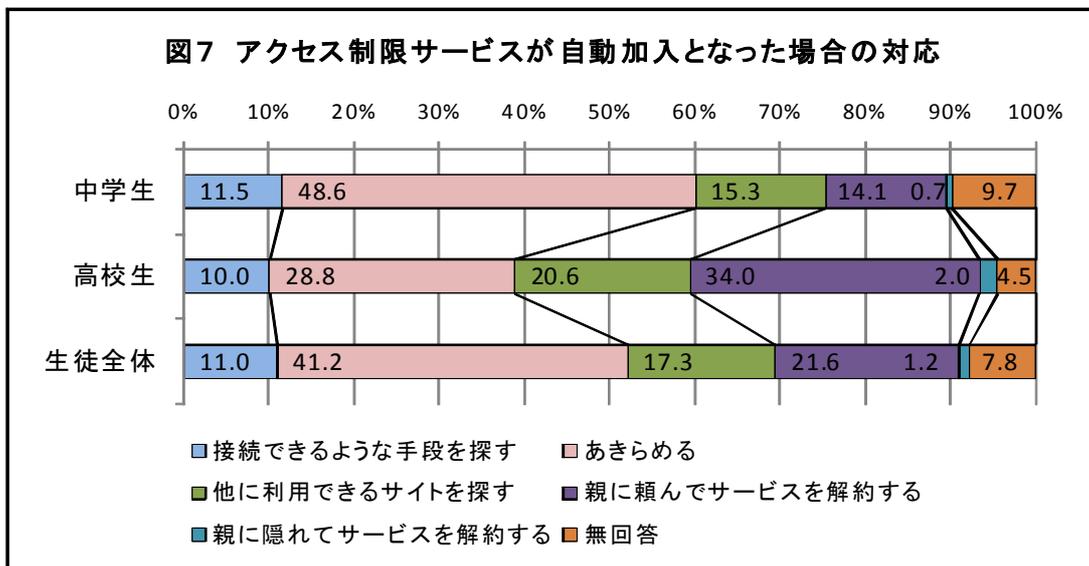


◎ サービスを利用している 生徒全体21.3% (386人)

※ 有害情報アクセス制限サービス（フィルタリングサービス）とは、アダルトサイトや出会い系サイト等青少年に有害なサイトへのアクセスを制限するサービスである。

(7) 有害情報アクセス制限サービスが自動加入となった場合の対応

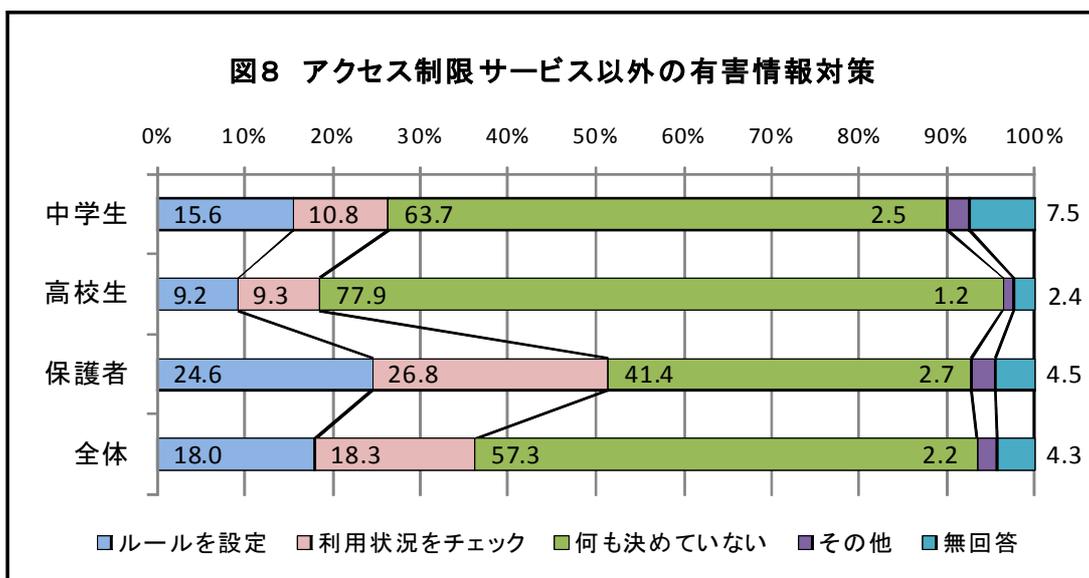
2割以上の生徒が、有害情報アクセス制限サービスを解約すると回答



◎ 親に頼んでサービスを解約する 生徒全体21.6% (752人)

(8) 有害情報アクセス制限サービス以外の有害情報対策

全体の半数以上が、有害情報対策を何も決めていない



◎ アクセス制限サービス以外の有害情報対策について、何も決めていない 全体57.3% (2,056人)